

# 安楽寺マンガ通信

その49 信楽めぐみ作

また多くの都市で緊急事態宣言が発令されました。

皆さんはいかがお過ごしでしょうか？



現在、大阪や東京の感染者は千人を超える日が出てきました。

しかし、主要都市だけが危ないのでしょうか？

皆さんは知らない間に数字のマジックにかかっています。



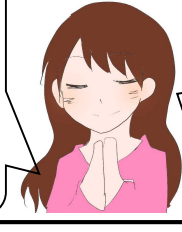
例えば、PCR検査数と陽性感染者数の割合を表した陽性率では、大阪府は7.4%・岐阜県は12.5%と感染者が多いとされている大阪より岐阜の方が高くなります。

陽性率が高いということは、検査をしていないだけで、感染者は潜んでいるかもしれない。

## 陽性率 大阪<岐阜

他にも、人口と感染者数の関係は？病院のひっ迫率は？感染者が多いから危ないとは一概に言えなくなっています。

なので、目に見えるものだけを信じるのではなく、物事を深く考える力を身に付けていかななくてはなりません。



## ヘルスケア～コロナ対策～

5月16日、広島県に昨年に続き2回目の緊急事態宣言が発出されました。新型コロナウイルスの感染者が増え、ステージ4という危険な状態が県内に広がっています。

私たちは「うつらない、うつさない」を合い言葉に、できる限りの対策をしてみたいと思います。

### 法要行事の場合の対策

下記の通り十分な感染予防を行って、法事・法要をおつとめします。(本願寺作成「法事・法要厳修のための留意点(ガイドライン)」より)

### 法要会場での基本

「3つの密」(密閉・密集・密接)を避けながら、法要行事に臨みます。

- ### 感染予防の基本
- ①体調管理: 体温を測定、体調を確認
  - ②手洗い・消毒: 丁寧な手洗い、共有物の消毒
  - ③咳エチケット: 症状がなくてもマスクを着用
  - ④席配置の工夫: 手を伸ばしても届かない程度に
  - ⑤適度な換気: こまめに空気を入れ換える
  - ⑥密接を避ける: 会話のときは正面に立たない

- ### 法要に臨んで
- ①発熱、風邪症状、体調不良等がある場合はお参り(外出)はお控え下さい。
  - ②同居家族に、上記症状のある方もお参りはお控え下さい。

- ### 住職・寺族の対策項目
- ①毎日検温して、体調管理に気を配ります。
  - ②手洗いうがい、アルコール消毒を徹底します。
  - ③勤行、法話の際もマスクを着用します。
  - ④人が密集するところにはできるだけ近づきません。



### 編集後記

新型コロナウイルスが収まることを知らず1年が過ぎました。昔の生活を思い返すととても沢山のものが満ち溢れており、楽しい毎日でもその生活に満足しておらず「もっと・もっと」と欲のままに生きていました。1面にあります通り、「吾ただたることを知る」を実感した1年でした。

いつかコロナウイルスが落ち着いてきた時に、また欲望にまみれてしまうのではなく、自分の欲を戒め、十分恵まれていることを認識し、そのことに感謝し生活するよう心掛けて参りを振り返ってみてはいかがでしょうか。 慈

## 安楽寺寺報

# 閑光

第99号 降誕会号

発行所  
〒737-0054  
呉市上山田町2-28  
安楽寺  
TEL: 0823-21-7561

## 一枚の写真

信楽 慧



コロナは収束せず、不安が拭えない日々が続きますが、皆様には如何お過ごしでしょうか？

初めは「真宗入門」の最初の一節です。

「親鸞聖人の教え、浄土真宗を学ぶとは、何よりも、その教えにふれることを通して、自分自身が少しずつ育てられていくことだと思えます。」

私はこの本を読んでみて、この一文に全てが込められていると感じました。「浄土真宗の教えとは?」、「私たちにとって宗教とはなにか?」、「生きるとはなにか?」それらの答がここにあり、私に語りかけてくれているように感じます。

私は祖父の話を聞き、その教えをしっかりと理解しているわけではありませぬ。しかし祖父の教えの一端に触れ、わたしなりに感じたことを述べたいと思います。

私は普段、「瞑想」を広める活動をしている会社で働いています。瞑想は、仏教の一つの行ですが、近年「マインドフルネス」と名前を変え、仏教の宗教色を取り払って、欧米を中心に様々なところで受け入れられています。また、現在では得度の際の日課として課せられてもいるらしいです。

この瞑想は、「今この瞬間に意識を向け、あるがままを受け入れる」ことを大切にしています。

今回の写真の龍安寺には有名な蹲踞(つくばい)があります。ご存じの方も多いと思いますが、口を真ん中に「吾」「唯」「足」「知」と刻まれており「わたれたることをしる」と読めます。この言葉は人の欲を戒める言葉です。



この写真は、石庭で有名な京都「龍安寺」の写真です。

今回の閑光から、祖父「信楽峻磨」の本を読み、その内容について書いてまいりたいと思います。

私たちはあるがままを見るのではなく、自分の欲望を見たりお金がないから幸せにできない。電車が遅れてしまったから不機嫌になる。というように不満ばかりを抱え込んでいます。しかし自らを見てみれば私たちが充分に足りるだけのものを頂いています。まさに「吾ただたることを知る」べきなのです。

「その教えにふれることを通して、自分自身が少しずつ育てられていくこと」とは宗教という生き方、哲学に沿って自身を深く顧みて自分自身が育てられている状況が見えてくる、ということなのかと思います。

忙しい毎日、考えることは多く、色々な刺激に満ちた現代において、「自分を顧みて、あるがままを受け入れる」ということはとても難しいことだと思えます。

ただ、少しずつでも自分を顧みて自分の自分を受け入れて生きていくことができましたら、それは祖父の言う「親鸞聖人の教え、浄土真宗を学ぶとは、その教えにふれることを通して、自分自身が少しずつ育てられていくこと」につながるのだと思うのです。



# わが子を亡くして

信楽 晃仁

『息子が残した詩、家族を支え半世紀』という記事が朝日新聞に掲載されていました。読まれた方もいらっしゃるかも知れませんが、皆さんにご紹介したいと思います。

一年の間に二人のお子さんを亡くされたあるお母さんの投稿が、多くの方々の反響を呼びました。

最初のお母さんの投稿の要旨は

「一九七二年から一年の間に二人の子どもを白血病で亡くした。三男は二歳というかわいい盛りにあつたという間に。そして小学二年から入院していた長男は闘病の末、五年生の四月に力尽きた。その後しばらくたつて、長男が病院で落書きに使っていたわら半紙の中から「春の台風」と題された詩を見つけた。

お母さんとはぐれてしまったのかな  
お母さんをさがしているんだろ  
うな  
ないでいるよ  
うきがな  
おつたら  
お母さんにめぐりあえるかもしれない  
だからそんなに木をゆすつたり  
おしたりしないで

この詩を額に入れて、我が家の宝物にした。長男が亡くなった日、病院から解剖の依頼があり、「この病気の子ども達のために少しでも役に立つなら」と承知した。今、あの時の解剖が役に立っていると信じたい。」

この投稿が元となり、静岡県越後香代子さん



顔も丸くふくれた。一度は病状も改善し、通学も再開した。長男は外見を恥ずかしがったり、学校を嫌がったりしたことは一度もなく家でも二人の弟の面倒をよく見ていた。

しかし、七二年の初め、少しずつ言葉覚え始めた当時一歳の三男も白血病に侵された。親戚や夫の職場仲間から輸血の協力を受け、祈るような思いで看病したが、二歳になって間もない四月二十九日息をひきとつた。再び入院していた長男も五年生になった翌年四月二十四日に力尽きた。

息子二人を一年のうちに失い、香代子さんは全身から力が抜けたような日々が続いた。数年後、そのままにしていた長男の入院時の荷物の中から、入院中よく使っていたわら半紙の束が出てきた。その中に長男の字で書かれた前出の詩が見つかった。詩からにじむ、長男の優しさ

が、残された家族の大きな支えになった。そして迎えた今年。「二人の最後の法事が近く中『僕を忘れないで』という長男の声が聞こえた気がしたんです」と香代子さん。

半世紀の間、開くことができなかったアルバムを、五十回忌をすませ、やっと見る事ができた。写真に残るあどけない姿を見たとき、涙がこみ上げて、なかなか先のページへ進めなかつた。「短い命でも頑張つて生き、その後も家族を守つてきてくれた。二人にありがとうと伝えたい」と。

この記事の中から私たちが学べることがたくさんあるように思います。

我が子が幼くして亡くすことの辛さはいかばかりかとお痛く亡くなります。そうした経験をお持ちの方もいらっしゃることでしよう。香代子さんはこの逆縁をご縁として、五十回忌までの法事をきちんとお勤めされました。そしてその最後に『僕を忘れないで』という声が聞こえたと言います。私たちにはその声が聞こえているでしょうか。

皆さんは先だった方々のご法事はお勤めされていますか？先だった家族のことを忘れている人はいませんか？先だった家族は私を「守つてきてくれた」方々です。そして本当に私たちを守つてくださったのは阿弥陀さまだとも教えて下さっています。そのことに気づきたい人はだれですか？「法事は先だった方々を偲び、声なき声を聞くことのできる数少ないご縁です。私たちが普段忘れていて、大切なことに気づかせてくれるご縁なのです。そのご縁をどうか大切に下さいます。それが必ず私の悲しみや苦しみを、感謝という笑顔に転じて行くのです。」

# お念仏のしくずく

仏法の性格…



もともと仏法とはきびしいものです。もしも仏法を聞いて、また念仏を申しながら、自分の心に何の痛みも感じることができないとするならば、それは決して仏法を聞いていないのではあります。それはただの世間話を聞いているにすぎないのです。仏法とは、また念仏とは、つねに私の現実の生き方を「それでよいのか」ときびしく問い「このように生きよ」ときびしく指し示すものであります。だから仏法を学び、念仏を申すようになる、私の現実の姿、なっていないお粗末な姿が、段々と見えてくるようになります。今まで気づかなくなっていた私の黒い心、私の迷いの足跡が、はっきりと自覚されてきます。そして私の生きざまが、きびしく反省されてまいります。それはちょうど光に照らされると、黒い影ができるようなものでありましよう。光がない時には影もありませんが、光が照らすと影ができます。しかも光が強くなると、影も濃くなります。仏法を学び、念仏にいいよ、反省されてまいります。と、より一層自分の姿が問われ、反省されてまいります。とだと申した意味がここにあります。

しかし、教えを学び念仏を申して生きてゆくならば、そういうきびしきと共に、また新しい生命がめぐまれます。後ろには黒い影ができますが、その行く手が明るくなるようなものであります。「きびしき」と共にそれとひとつになつて恵まれる、人生の「あかるさ」です。

## 暮らしの中の仏教語

### 「結果(けつしゆう)」

「みんなの力を結果して、この難局に立ちむかおう」とか「メーカーには〇〇広場に結果を」とか、結果は、労働運動関係をはじめ、一般によく聞かれる言葉です。仏教では、結果を「けつしゆう」と読み、声を合わせて朗誦(ろうじゆ)することを意味します。

お釈迦さまの死後、弟子たちは、その教えを編集し、再確認しようと、お釈迦さまの教えを聞いた五百人が集まり、記憶していた教えを持ち寄りしました。持ち寄られた教えは、補充したり削除したりして、しだいに整理され、最後に皆で一緒に声を合わせて合誦(ごうじゆ)することによって、一つの經典ができました。結果とはそのような仏典編集会議なのです。

仏教語の「けつしゆう」が今日の「けつしゆう」になったのですが、考えてみますと、結果の場合でも、一同が声を合わせて、いわゆるシュプレヒコールをしますからね。

## 安楽寺法要案内

### --永代経法要--

日時 6月19日(土) 昼席  
6月20日(日) 朝席・昼席  
朝席10:00～ 昼席13:00～  
講師 長門市 浄土寺 萩 隆宣 先生  
講題 信心の智慧

### --歓喜会法要(合同仏参)--

日時 8月13日(金) 10:00～  
8月14日(土) 10:00～  
講師 住職自勤  
講題 先祖を訪ねる

### 信楽峻磨前住職 七回忌法要

日時 9月26日(日) 朝席・昼席  
朝席10:00～ 昼席13:00～  
講師 大阪 如来寺 釋 徹宗 先生  
桂 雀々 師匠  
講題 佛慧を味わおう  
仏縁を楽しむ